

# としょかんだより

真間小学校 2021年2月号

今年の節分は124年ぶりの2月2日。皆さんの家ではあぶったイワシの頭を椀に刺して戸口に下げたり豆まきをしたりしますか？

節分はもともと季節の変わり目という意味で、立春・立夏・立秋・立冬の前の日のことでしたが、今は立春の前日だけをさすようになりました。旧暦では立春で冬が終わり春になって1年が始まると考えられていたので、新しい年が良い年になるように、節分の日に邪気を払うための豆まきをするようになりました。豆まきは昔中国で行われていた鬼を払う「追儺」という行事と日本にもあったこれも邪気を払う「豆打ち」という風習が合わさって広まったものです。「福は内、鬼は外」と唱えながら炒った大豆をまき、邪気を払います。そして自分の年の数の豆を食べて1年の無事と健康を祈ります。

皆さんも、アレルギーのない人は栄養豊富な大豆を食べて、どうぞ1年を健康にお過ごしください。(参考文献 『和の行事えほん』高野紀子作)

## としょつ 図書室からののお知らせとお願い

◎節分に因んで、2月の行事に関連した本や鬼が登場する話の絵本をあゆみの部屋に揃えました。9類以外の本も並べています。また、9類の部屋に鬼の登場する物語の本を集めました。この機会にぜひ読んでみてください。

◎蔵書点検をしたときに見つからなかった本で、現在鋭意捜索中です。

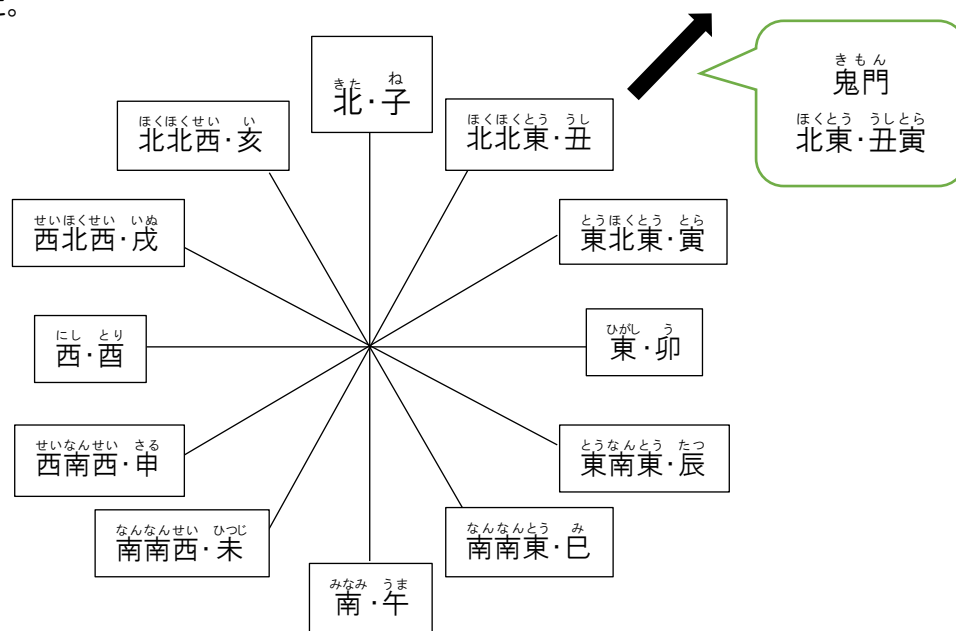
- バーコードNo 102060230 『ここで土になる』 大西暢夫/著
- 102007054 『サケのたんじょうく科学のアルバム 81』 桜井淳史/著
- 102000574 『人の体<学研の観察図鑑8>』
- 102009858 『版画のはらうた 3』
- 102060311 『黒魔女さんが通る!! [黒魔女さんのホワイトデー]』 石崎洋司/作

もし見つけたら図書室に持ってきてください。よろしくお願ひします。

## おに 鬼についての豆知識

皆さんは鬼というときまず何を思い浮かべるでしょうか？

その姿かたちでしょうか？ いろいろな色をしていて角や牙が生え、虎の皮のパンツをはいている……一般的によく知られている姿ですね。この姿には理由があります。もともと「鬼」は天の神に対して地上の悪神や邪神、亡霊やもののけ、異種族の者、想像上の怪物等を表す言葉で、他より優れた才芸を持つ者にも使われました。古代中国の陰陽五行説に基づく陰陽道の影響を受けて、陰陽道では全ての厄災(鬼)が出入りする方角が北東であることからその方角を鬼門といい、北東は丑寅の方角に当たるため、鬼の姿は牛の角と虎の牙を持ち、虎の皮の褌を締めた姿となりました。



皆さんがよく知っている昔話の「桃太郎」は、鬼を退治しに鬼ヶ島へ、犬・猿・雉をお供にして向かいます。犬(戌)・猿(申)・雉(酉)は丑寅の方角と対になる方角です。桃太郎は無事鬼を退治することができました。犬、猿、雉(対になる方角)で鬼(鬼門)に對抗し、そして勝った(良い結果を得た)ということになるのでしょう。

私達が普段読んでいる民話や昔話の中には、話の中に隠れた意味があるものがあります。今までとは違った視点を持って物語を読んでみるのも案外おもしろいものですよ。

本棚の本が逆さまに入れてあったり、背表紙を奥に入れてあったりする様子を見かけます。本を選んだ後、本棚に戻すときは背表紙が見えるようにきちんと立てて戻してください。お願ひします。